

(2022 年度) ちゅうでん教育振興助成

高等専門学校の一部 (2023 年度助成)

成果報告書

学校名・申込代表者	鳥羽商船高等専門学校 鈴木聡
活動・研究のテーマ	CEFR に基づいた海事英語カリキュラムと教材開発

【活動・研究の意義】鳥羽商船高等専門学校は船舶職員養成施設であり、外航船で公用語となる英語教育にも力を入れている。しかし高専のカリキュラムは、英語を含む一般教育科目数が学年進行に従い削減される楔形教育である。また商船学科の学生は、4 年後期と 5 年卒業後の半年間でそれぞれ乗船実習を行うため海事教育機構の練習船に出向し学校に不在となり、中学までで経験した苦手意識に加え限られた学習時間で英語スキルを取得しなければならない。就職の際に求められるビジネス英語の指標は TOEIC スコアで 500 以上と言われており、より効率的に海事英語学習を指導する必要がある。一方、日本の英語教育では読み書き中心から 4 技能型を重視したカリキュラムに変遷している。そこで本活動では、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages : ヨーロッパ言語共通参照枠) に基づく海事英語カリキュラムの開発を行うため、海事分野の英語教育について 4 技能を重視した教育手法の適用検討を行ない、商船高専における 5 年 6 ヶ月間での学習時間を効率的に活用して社会で通用する英語スキルの取得に寄与する授業実践の確立に繋げる教材開発を行った。

【時期】4 月にカリキュラム策定のため対象学年と CEFR の設定基準について東海大学航海学専攻の瀬田広明教授と今井康之准教授と共に検討を行った。低学年から効率的に学習させることを鑑み対象学年を 1 年生～2 年生とした。また CEFR のレベルを実用英語検定試験 (英検) の規定では中学卒業相当のレベルが英検 3 級、高校 2 年生程度が英検準 2 級であることから文科省の「各資格・検定試験と CEFR との対照表」より A1～A2 レベルとした。次に CEFR の A1～A2 レベルと同じとされている学習指導要領に準じた高校生対象の検定教科書と CEFR 基準の教科書について文法項目を比較し、差異を抽出した。検討に用いた教科書を図 1 に示す。特に検定教科書 (検定版) には、本校の 1 年生の履修科目で様々な英語の要素が含まれる English Communication1 (EC1) の授業で使用していた教科書を含めて CEFR のコースブック (CEFR 版) に類似した高校 1 年用の教科書を選定した。結果 CEFR 版

種別	A1	A1+	A1-A2	A2	検定教科書																	
教科書名	World English Intro Plus A1	Elementary Pioneer	World English 1 A1+	New Language Leader A1-A2	Gear up A1-A2	Level up A1-A2	Start up A1-A2	World English 2 A2	Plus A2	Intermediate Pioneer	All Aboard	My Way	Power on	Blue Marble	FLEX	COMET	Crossroads	Applause	Landmark I/II	Amity	Grove	
不定詞の用法																						
関係代名詞の用法																						
関係副詞の用法																						
接続詞の用法																						
助動詞の用法																						
前置詞の用法																						
動詞の時制及び相等																						
仮定法過去																						
仮定法過去完了																						

図 1 CEFR 準拠教科書と検定教科書文法項目対照

の A1 レベルでは助動詞、前置詞、動詞の時制および相を中心としたものが多く、A1～A2 レベルの教科書は上記に加え接続詞を扱うものが多いことを確認した。A2 レベルでは A1 レベルの項目の他に不定詞が含まれるようになるが、関係代名詞、関係副詞は一部でしか扱われておらず、仮定法過去、仮定法過去完了に関してはどの教科書も扱っていなかった。検定版でも、初級～中級レベルで関係副詞、仮定法過去、仮定法過去完了の扱いはなかった。しかし上級レベルでは不定詞から仮定法過去完了まですべて網羅し、これは CEFR

レベルでは B1 以上に該当するもので、日本で使用される EC の検定版には多くの文法項目を含んでいることが判明した。

同時に、海事英語の学習効率をあげる教材作成を開始した。CEFR 版とガイドラインを参考に文法項目を精選し、作成基準を繰り返し見直すことで最終的には 12 章で 4 章毎に Review をつける構成とした。全体の 3 分の 1 にあたる 4 章を作成した段階で、CEFR 版と CEFR 準拠テスト問題の作成経験のあるイスタンブール工科大学外国語学校の学校長である Prof・Dr Nilüfer Ülker に連絡を取り、9 月 3 日～15 日にイスタンブール工科大学で Prof・Dr Nilüfer Ülker、Ms. Duygu Deniz Yücer、Ms. Hülya Severgün、Ms. Müjgan Özenir の 4 氏にサンプル教科書(サンプル版)について助言を受けた。4 氏の指摘事項には、内容は面白いが、Chapter によっては難しいものがあるとのこと、出来ることなら一般英語ができるようになってから専門英語をやるべきとの意見があった。

11 月には助言を妥当性の検討を行い、第 4 章までの内容を改訂(図 2)すると同時に、検定版、CEFR 版、専門分野(専門版)の各教科書及び、作成したサンプル版について意識アンケートを実施し、教科書の選定基準について比較検討を行なった。アンケート調査で対象とした教科書は文法項目を調査したときと同じものを使用した。対象者は本校の商船学科 4 年生を除く 1 年生～5 年生と海事システム学専攻科 1、2 年生(専攻科生)及び、商船学科(S 科)と英語科教員(E 科)とした。被験者の内学生数は計 126 名、教員は S 科 7 名、E 科 2 名の計 9 名である。なお、S 科 4 年生は半年間の実習のため不在であるため調査対象外である。検定版、CEFR 版について学生と S 科教員が重視したものには、図 3 と図 4 より見やすさ、内容への興味が多く E 科教員は難易度に重点をおいていることが判明した。図 5 に示す専門版に関しては E 科教員も学生や S 科教員と同様見やすさと内容に興味を持てることを優先していることが判明した。同時に今回試作したサンプル版について(図 6)は学生・教員ともに見やすさや、内容に興味を持るとの結果となり従来の教科書で重視される点を網羅し、おおむね好評であることを確認した。

これを受けて、CEFR に基づいた海事教材開発の重要性の確認方法と結果について、2024 年 3 月 1 日～3 月 4 日に開催された日本教育工学会において「海事英語における CEFR 準拠教材開発とカリキュラム検討」と題して発表した。

【期待する成果・効果】本研究では CEFR 準拠の海事英語カリキュラムを作成する上で、複数関連する文献を調査検討した上で、低学年を対象とした CEFR A1～A2 レベルの海事英語教科書の作成を行った。当初計画し念頭に置いていた 1/3 である 4 章までしか作成できなかったがアンケートの調査結果では、既存の教科書と比較して「内容に興味を持てる」「わかりやすい説明」が高評価され、引き続きこの教科書を作成・完成させることで学生の英語力にフィードバックできるものと考えられる。

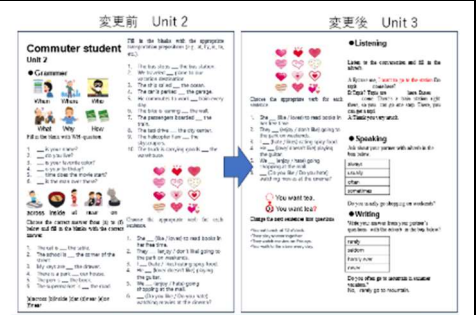


図 2 試作したサンプル版教科書の妥当性評価前後の変更例

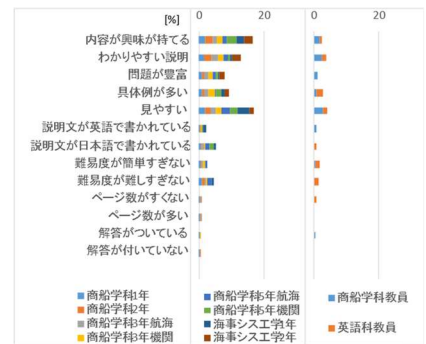


図 3 検定版の選定基準

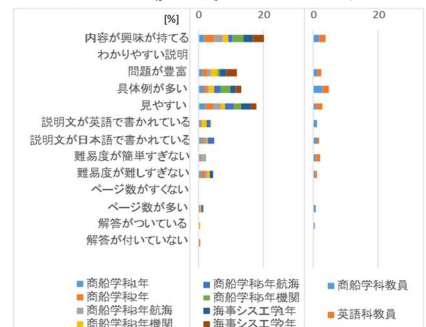


図 4 CEFR 版の選定基準

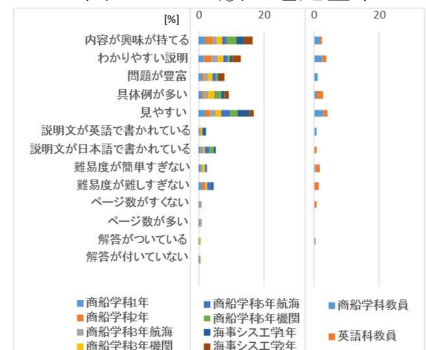


図 5 専門版の選定基準

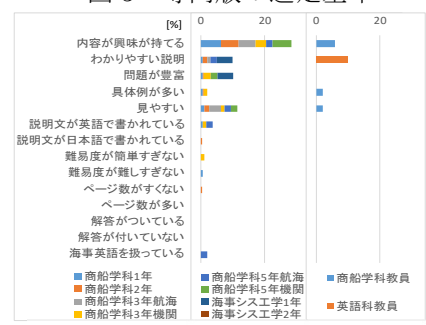


図 6 サンプル版に対する意識

この教科書を作成・完成させることで学生の英語力にフィードバックできるものと考えられる。